

芝井 敬司



関西大学 学長

楠見晴重前学長の任期満了に伴い、10月1日付で芝井敬司文学部教授が学長に就任した。任期は4年。

芝井新学長は1956年大阪府生まれ。1978年京都大学文学部史学科（西洋史）卒業、1981年同大学院中退。博士（文学）。京都大学助手を経て、1984年に専任講師として関西大学に着任、助教授を経て、1994年に教授。学部長、副学長、法人常任理事などの要職を歴任した。学外では、公益財団法人高

槻市文化振興事業団評議員、独立行政法人日本学術振興会大学教育再生加速プログラム委員会専門委員を務めた。

専門は、西洋史。数量歴史学の歴史研究方法に関心を寄せ、いち早くその動向をわが国に紹介し、注目された。また18世紀啓蒙史学に近代歴史学の源流を求め、モンテスキューやエドワード・ギボンに関する研究で業績を重ねた。主な著書として『新しい史学概論（共著、松籟社、1991年、同新版、昭和堂、2002年）。関西大学は、本年度創立130年を迎えた。新学長は、歴史ある関西大学を大きく変革し、燃えさかる「知のたいまつ」を後に続く世代に引き継ぐために、「研究と教育」の面で内的充実をはかる一方、「社会連携と国際活動」を通じて社会、地域、国際舞台といった大学の外の世界と関西大学とのつながりを、太くしっかりと築き上げていく方針である。

佐々木 重人



専修大学 学長

2016年9月1日付で、佐々木重人商学部教授が第17代学長に就任した。任期は3年。

佐々木新学長は1955年東京都生まれ。1978年専修大学商学部会計学科卒業、1983年同大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同年専修大学商学部助手に就任、助教授を経て、1995年から商学部教授。2013～2016年に商学部長を務めた。専門は会計史。主な著書として『近

代イギリス鉄道会計史——ロンドン・ノースウエスタン鉄道会社を中心に——』（国元書房、2010）、共著として『体系現代会計学第5巻 企業会計と法制度』（中央経済社、2011）、「歴史から見る公正価値会計——山書店、2013）などがある。

専修大学が2020年に創立140周年を迎えるに当たり、21世紀ビジョン「社会知性の開発」の下、積極的に教育改革やキャンパス整備に取り組んでいる。特に神田キャンパスにおいては、靖国通り沿い新校地の新校舎の建設、国際系新学部の創設、商学部の生田キャンパスからの移転を控えており、新学長はさっそく強力なリーダーシップを発揮している。「今後ともさまざまな意見に耳を傾け、具体化できるものから着手し、目に見える改革を進めていきたい」と語る新学長の手腕に、大きな期待が寄せられている。

岩崎 恭典
いわさき やすのり



四日市大学 学長

本年4月に急逝した前学校法人暁学園理事長・宗村南男の後任として、9月1日付で岩崎恭典副学長が第3代学長に就任した。学校法人暁学園理事および評議員を兼ねる。

岩崎恭典新学長は1956年京都府宇治市生まれ。早稲田大学大学院を修了後、中央学院大学法学部助教を経て、2001年から四日市大学総合政策学部教授。同学科長、教務部長、コンピュータセンター長、情報センター館長を歴任し、201

3年から副学長。2014年度には、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択に重要な役割を果たした。

専門は地方自治制度、市民参加論、住民団体論で、総務省の「地域経営の達人」、三重県教育委員長、県内外の自治体・行政関係などの委員を歴任している。主な著書に『市町村合併後の自治体のあり方』などがある。

四日市大学の建学の精神「人間たれ」に基づいて、岩崎新学長は「地域を教室に、地域から学ぶ」を実践する地域志向教育をメインに据えたカリキュラム改革と、学生の成長を測る成長スケールの導入を推進している。2016年の学園創立70周年から2018年の大学創立30周年に向けて地域貢献型・地域密着型大学としての特色を積極的に打ち出し、三重県北勢地域における地方創生の先頭に立っていきたくと考えている。

日本私立大学連盟では、当法人の活動、私立大学の教育研究、管理運営などにかかるさまざまな情報および国の高等教育政策にかかる動向などの社会への発信とともに、情報共有の推進を主目的として、今年度も「私立大学フォーラム（全4回）」を開催します。



教育の明日を探る



お申し込みはこちら
※またはWEBで「私大フォーラム」と検索ください。

第4回（福岡） 12月10日（土）13:00 福岡大学

大学入試 ～私立大学の改革～

※無料、定員予約制（200名）

- | | | |
|---------|--------|------------------------|
| 意見発表 | 沖 清豪氏 | 早稲田大学入試開発オフィス長、文学学術院教授 |
| | 伊東 辰彦氏 | 国際基督教大学教養学部長 |
| コーディネータ | 黒瀬 秀樹氏 | 福岡大学副学長 |
| | 松本 亮三氏 | 東海大学観光学部教授 |

平川 新 宮城学院女子大学学長。81東北
大学大学院文学研究科博士課程中退。専門は日
本近世史。東北大学東北アジア研究センター長、
同災害科学国際研究所長を経て、14から現職。

大日向雅美 恵泉女学園大学学長。お茶の水
女子大学大学院修士課程修了。東京都立大学
大学院博士課程満期退学。学術博士。16から
現職。

藪田 洋 青山学院大学 進路・就職部 部長。

難波祐美 特定非営利活動法人南大阪地域大
学コンソーシアム コーディネーター。05同志
社大学文学部卒。文部科学省戦略的連携
支援事業支援員を経て、11から現職。

磯野彰彦 昭和女子大学キャリア支援センター
長、グローバルビジネス学部特命教授。78早
稲田大学政治経済学部政治学科卒。毎日新聞
社に33年間勤務後、13から現職。

栗林野一 東北学院大学就職キャリア支援課
課長。

青木 好宏 上智大学文学部教授。90上智大
大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。
専門は、メディア論。主著『放送メディアの
現代的展開』ほか。

内田 樹 神戸女学院大学名誉教授。東京大
学文学部仏文科卒。東京都立大学大学院人文
科学研究科博士課程中退。専門はフランス現
代思想。主著『日本辺境論』など。

三宅威仁 同志社大学神学部教授。94シカゴ
大学大学院社会学部PhD課程単位取得退
学。94同志社大学入社。08から現職。

角田泰隆 駒澤大学仏教学部教授。博士（文
学）。13から禅学科主任。主著『道元禅師の思
想的研究』など。

林田康順 大正大学仏教学部部長、教授。94大
正大学大学院仏教学研究科博士課程単位修得。
専門は浄土宗学。「選択集」の構造」ほか、
著書・論文多数。

寺尾英智 立正大学仏教学部部長、教授。立正
大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。
博士（文学）。身延山大学を経て、13から現
職。主著『日蓮聖人真蹟の形態と伝来』。

土井健司 関西学院大学神学部部長。92京都大
学文学部文学研究科博士課程退学。博士（文
学）、博士（神学）。主著『救貧看護とファイラ
ンスロピア』（創文社）など。

野尻俊明 日通学園理事長。73流通経済大
学経済学部卒。79日本大学大学院法学研究科博
士課程満期退学。㈱日通総合研究所入社後、89
から流通経済大学教授、15大学長、16から現職。

川村 孝（公社）全国大学保健管理協会代表
理事。京都大学環境安全保健機構附属健康科
学センター長、教授。80名古屋大学医学部卒。
医学博士。主著『臨床研究の教科書』。

井上則子 津田塾大学国際関係学科教授、同
大学ウエルネス・センター長。東京学芸大
大学院教育学研究科修士課程修了後、津田塾
大学でウエルネスの研究・教育に従事。

清水 芳 北里大学健康管理センター・北里
大学病院看護部看護係長、保健師。北里大学
看護学部卒。北里大学病院に入職し、13から
現職。

岡原宏一 公認会計士、税理士。日本私立大
学連盟税務顧問。

直井和久 日本大学理工学部専任講師。'02日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。'13博士（工学）。'14から現職。

後藤康浩 亜細亜大学都市創造学部教授。早稲田大学政経学部卒、豪ボンド大学MBA取得。日本経済新聞社論説委員、編集委員、アジア部長などを経て、'16から現職。

針本正行 國學院大學副学長、文学部教授。'79國學院大學大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。博士（文学）。'11から現職。主著『平安女流文学の研究』など。

平山喜雄 法政大学学務部次長。'86法政大学法学部法律学科卒。'87法政大学入職、学務部、総務部などを担当し、付属校事務長、学務部教育支援課長を経て、'164月から現職。

山口輝幸 國學院大學大学IR推進連絡協議会責任者（教学事務部大学院担当次長）。'88國學院大學卒。大学行政管理学会事務局長などを歴任。

原正福 学校法人立教学院人事部人事課。'99立教大学社会学部卒。住友銀行（当時）、パソナキャリアント（当時）を経て、'04立教学院入職。'12から現職。

渡辺美和子 跡見学園女子大学文学部卒。企業勤務等の際結婚退社。1995年に代表取締役社長に就任。日本でも数少ない、地球儀製造メーカーの4代目社長、後に会長として、教材という枠にとられないユニークな地球儀の数々を世に送り出してきた。大学やJAXAの研究者とも、常に情報交換を欠かさない。

山岡三子 フリーアナウンサー。学習院大学卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。博士（社会デザイン学）。名古屋短期大学客員教授。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

- 9月13日(火) 第5回常務理事会、第7回理事会に出席
- 9月15日(木)・28日(水)・29日(木) 平成29年度税制改正(受託研究の非課税化)について国会議員に要望
- 9月27日(火) 与党・新文部科学部会長に平成29年度の私立大学予算・税制改正を要望
- 10月4日(火) 日本私立大学団体連合会 役員会に出席
- 10月18日(火) 第6回常務理事会、第8回理事会に出席
- 10月25日(火) 主要国会議員に、私立大学等経常費補助金拡充の「緊急要望」を陳情
- 10月26日(水) 文部科学大臣および自民党文部科学部会長に、私立大学等経常費補助金拡充の「緊急要望」を陳情
- 10月28日(金) 自民党文部科学部会ヒアリングに出席

平成28年秋の叙勲・褒章
(連盟事業関係者)

〔叙勲〕

瑞宝中綬章

大森 健一(獨協医科大学名誉教授、元学長)

加藤 諱三(早稲田大学名誉教授)

島田 真久(大阪医科大学名誉教授、元学長)

戸田 善久(日本大学名誉教授)

瑞宝小綬章

藤田 武良(関西大学名誉教授)

〔褒章〕

紫綬褒章

樋口 美雄(慶應義塾大学商学部教授)

開催報告

● 9月5日(月)

〔理事長会議〕開催

「改正学校教育法施行後のガバナンス・マネジメント体制——理事長、学長及び設置学校長の職務と権限——」をテーマに開催。63法人84人の参加がありました。

● 9月16日(金)

〔国の補助金等に関する説明会(第1回)〕開催

「平成29年度文部科学省概算要求」および「国公立私立大学を通じた大学教育再生

の戦略的推進」、さらに、創設の検討が進められている給付型奨学金制度や、新たな所得連動返還型奨学金制度などの「国の奨学金制度の動向」について、文部科学省担当者から報告、説明がありました。当日の参加者は、89大学295人でした。説明会後、設置された個別質問ブースでは、各大学からの質問に文部科学省担当者が対応し、より詳細な説明を受けました。



私大連盟「国の補助金等に関する説明会」

私大連盟公式 Facebook ページ

公式 Facebook ページ (<http://www.facebook.com/shidaren>) を開設しています。次号「大学時報」の進捗報告などを発信しています。



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第344号（2012年5月発行）から

詳細は

<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou>



第367号（2016年3月発行）

【特集】

少人数教育の効果と課題



【座談会】

大学図書館はこれからどうなるのか？

【インタビュー】

野村 忠宏氏（柔道家）

第368号（2016年5月発行）

【特集】

高等教育は持続可能なのか



【座談会】

「入試改革」のこれまでと、これから

【小特集】

教職員の心の健康

【インタビュー】

森田 隼人氏（シャボン玉石けん株式会社 代表取締役社長）

第369号（2016年7月発行）

【特集】

選挙と大学



【座談会】

「医師」を育てるとは——医学部教育の現在

【小特集】

大学改革とSD 義務化

【インタビュー】

高橋 尚子氏（スポーツキャスター・マラソン解説者）

第370号（2016年9月発行）

【特集】

大学における障害者差別解消に向けた取り組み



【座談会】

大学は発達障害をどう受け入れるのか

【小特集】

大学のIR活動における取り組み

【インタビュー】

杉本 健爾氏（書道家・美文字トレーナー）

座談会 「大学におけるスポーツ系学生へのケアやサポート」

特集 「東日本大震災被災地と大学との連携再考」

小特集 「大学職員 社会人採用の今」

表紙・大学点描 大阪薬科大学 だいがくのたから 学習院女子大学

クローズアップインタビュー：

「**山田寛豪さん**（オリンピック トライアスロン日本代表選手、流通経済大学職員）」

編集後記

◆日本の私立大学のうち、仏教系、神道系、キリスト教系の大学を合わせると120校程度になるそうである。800校弱の大学全体からすると少数派になるかもしれないが、今回はその中でも学部・学科を持っていて4大学と、神戸女学院大学名誉教授である内田樹氏、同志社大学神学部教授の三宅威仁氏にご執筆いただいた。

今回の企画の問題意識としては、宗教系学部・学科の学生のうち、僧職・神職・聖職者にならない学生はどのようなものかということがあった。残念ながら、これに関する記述はほとんど見られなかったのでも、取り上げにくい話題なのかもしれない。

しかし、新たな発見もあった。宗教系学部・学科のミッションとは、その大学の人材育成と人格形成の根本に貢献するものであり、宗教系学部・学科は人間の成熟と大学の存在意義の両方を見つめ直す部門なのではないかということである。因らぬ三宅氏と内田氏の原稿の最後で、人間が宗教を通してどう生きていくべきかについて触れてい

たのは、これと無関係ではないだろう。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・神戸女学院大学図書館課長補佐 宇高泰輔）

◆小学校から中学・高校に進むにつれ、だんだん「保健室」のイメージが薄れていく気がする。そして大学のそれは、多くの学生・教員にとってほとんど縁遠い存在とは言えないか。

一方、大学教育において、日常的な学生の健康管理は大きな問題であり、だからこそ「百回朝食」をはじめ、さまざまな取り組みが積極的に実施されてきている。また、発達障害、とりわけ本人や家族にその認識がない者への対応など、組織としても個々の必要にとつても難しい支援が必要とされる例が増えている。もちろん、伝統的でベシックな業務としては、定期検診の実施や急病者への応急手当でもあるだろう。

こうした広範な領域に、由来の保健室とともに、学生相談室などのカウンセリング業務なども含めてどう対応すべきなのかも、悩みを抱えている大学も少なくないのではないか。業態や規模が異なっても、大学教育の基本である心

身の（健康）のために、課題解決の糸口を先行事例から見つけていければと思う。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・専修大学文学部教授 山田 健太）

◆座談会は、インターンシップをテーマに開催した。当初は単位化が参加学生増加のきっかけとなったが、今では学生が自ら公募型インターンシップに申し込むケースが増え、実態把握が難しくなっている。こうしたなか、今一度、大学におけるインターンシップの意義を確認する機会ともなった。

インタビューは、渡辺教具製作所会長の渡辺美和子さん。シェア、品質ともに国内トップの地球儀メーカーの経営者として「単に売れるから作るのではなく、宇宙を知らりたいという人々に見応えのあるものを提供する」というものづくりに対する思いや、そのために常に勉強する姿勢を持つことができた。

話は戻るが、大学のインターンシップは、こうした企業の現場で働く人々の、仕事への向き合い方を感じ取る機会にもなっているのではないかと願う。（日本私立大学連盟事務局 権藤 和代）

(122大学 平成28年11月20日現在)

愛亜細山知大	大	学	皇	學	館	大	学	聖	学	大	学
青山学	大	学	國	際	院	大	学	成	城	院	学
跡見学	女	子	國	際	武	道	学	カ	夕	リ	大
梅文	教	女	國	際	基	督	学	南	学	院	学
筑紫	女	子	駒	小	澤	教	学	泉	女	子	学
中京	大	学	苦	留	大	大	学	心	女	子	学
獨協	大	学	甲	立	米	大	学	專	修	大	学
獨協	大	学	久	都	女	大	学	石	工	業	学
姫路	大	学	共	都	子	大	学	白	女	子	学
同志	大	学	京	都	業	大	学	百	女	子	学
フエ	大	学	京	都	精	大	学	台	白	女	学
福岡	女	子	京	都	橘	大	学	昭	和	女	学
福岡	女	子	松	山	山	大	学	創	圃	園	学
福岡	女	子	明	山	雲	大	学	園	学	正	学
習志	女	子	宮	治	学	大	学	天	殖	理	学
白鷺	女	子	桃	山	院	大	学	東	邦	大	学
阪南	大	学	武	藏	野	大	学	北	学	院	学
広島	学	道	藏	野	美	大	学	公	益	文	学
法政	大	学	古	屋	学	大	学	海	大	学	学
兵庫	医	科	南	山	本	大	学	京	療	保	学
実践	女	子	日	本	女	大	学	東	女	子	学
上智	大	学	ノ	ル	心	大	学	東	京	經	学
城西	大	学	大	阪	学	大	学	東	京	農	学
順天	大	学	大	阪	医	大	学	東	京	情	学
関西	大	学	大	阪	薬	大	学	東	京	報	学
関東	大	学	大	阪	女	大	学	東	京	洋	学
関東	大	学	大	阪	谷	大	学	東	京	和	学
慶應	大	学	大	阪	門	大	学	東	京	学	学
惠泉	女	子	立	立	教	大	学	東	京	工	学
敬神	女	子	立	立	正	大	学	東	京	塾	学
神戸	女	子	立	立	館	大	学	東	京	田	学
海星	女	子	立	立	ア	大	学	東	京	和	学
			立	立	谷	大	学	東	京	大	学
			立	立	科	大	学	東	京	日	学
			立	立	経	大	学	東	京	四	学
			立	立	文	大	学	東	京	日	学
			立	立	理	大	学	東	京	四	学

大学時報 2016 11月号

第65巻371号 (通巻385号)
 平成28年11月20日発行

編集人 音好宏 (上智大学文学部教授)
 発行人 松岡敬 (同志社大学学長)
 発行所 一般社団法人日本私立大学連盟
 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
 私学会館別館
 電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363
 http://www.shidaiaren.or.jp
 編集 株式会社進研アド
 〒530-0003 大阪市北区堂島2-4-27
 新藤田ビル

直 毅 (法政大学社会学部教授)
 林山 康弘 (上智大学総務局SGU事業推進室)
 藤井 正 (関西大学広報課長)
 赤井 幸爾 (関西学院大学高大接続センター入試課長)
 宇 幸信 (慶應義塾大学法学部教授)
 高 幸輔 (神戸女学院大学図書館課長補佐)
 村 幸俊 (武蔵大学社会学部教授)
 浦 幸雄 (南山大学理工学部教授)
 高 幸雄 (日本大学芸術学部教授)
 岡 幸雄 (立命館大学総合企画部広報課長)
 田 幸雄 (専修大学文学部教授)
 澤 幸雄 (園田学園女子大学人間教育学部教授)
 高 幸雄 (大正大学事務局長)
 木 幸雄 (早稲田大学広報室副室長)
 藤 幸雄 (日本私立大学連盟事務局)
 藤 幸雄 (日本私立大学連盟事務局)
 部 幸雄 (日本私立大学連盟事務局)

